

評価領域	研究
------	----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人に応じた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりと教育課程の改善 ・教員一人一人の授業力向上 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え、表現する力を発揮する授業づくり」を研究主題として、学部段階の目指す姿を掲げ国語、算数・数学で検証を行った。授業の計画、実践、評価、改善が日常的に行われるようになってきた反面、障害や認知の特性を考慮した単元構成に課題がある。 	
具体的な目標	児童生徒の考え、表現する力を育成する授業づくり、授業実践を通じた教育課程の改善	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○公開研究会及び全校授業研究会での授業提示と「子供の視点に立った」研究協議会の実施（研究対象：国語、算数・数学）、事後の改善授業の実施 ○教員一人一回以上の授業提示（研究対象：国語／算数・数学、自立活動）と授業改善 ○教育課程検討委員会、教育課程3部会（国語、算数・数学、自立活動）の実施 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業の基本チェック」の項目の整理と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の提示授業では、授業評価として県特別支援教育課指定の「チェックリスト」を活用。日常的な授業評価には、これまで授業前のチェックとして活用していた「授業の基本チェック」を15項目に整理し、冊子にして全教員へ配布。 ○「めあて」に迫る手立て（板書や発問等）の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・目標の焦点化に向けた単元構成検討会と学習指導案検討会の実施。（構成メンバーは授業提示者と学部主事、研究部員、教育専門監、研究主任ほか） ・提示授業における板書計画を含む授業計画と一単位時間の授業のシナリオづくり ・「めあて」に迫る児童生徒の様子を書き留めた付箋紙を基にした研究協議 ○教育課程検討委員会、教育課程3部会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な目標設定や観点別評価、複数の目による児童生徒の変容の見取りと授業評価 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の基本チェック」の活用により、小学部1年段階から授業中のルールなどが徹底されてきている。授業づくりの手がかりの一つではあるが、学校生活での必須事項として日常化されることを目指している。 ・提示授業について、計画的に単元構成や学習指導案の検討会を実施し、多数の目での妥当性のある目標設定に迫った。 ・よりよい授業づくりには教員の児童生徒を見取る力が必要であることから、“子どもの視点に立った”授業の見方や授業研究会を行った。新たな協議方法に慣れず「まだ従来の授業批判や教員批判になってしまいがち」といった感想もあるが「めあて」に迫る様子を見取って授業改善に生かす意識が高まってきている。 ・教育課程3部会で授業づくりの課題の吸い上げと改善策の検討を行った。 	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりのスタンダードとして「授業の基本チェック」を冊子にして配布したが、「一人一人の特性への対応」では、知的障害の特性を踏まえて単元を構成するなど、一人一人に応じてより一層の手立ての工夫が必要である。また、学習展開において「対話的な学び」の設定が不足したといった反省もあった。 ・単元構成検討会、学習指導案検討会の計画的な実施や児童生徒の視点に立った提示授業の参観方法は軌道に乗ったが、授業力の向上に向けては、継続した取組が必要である。 ・教育課程3部会では、課題の共有と改善案の提案が活発に行われたが、全教員の授業改善に結びつくための周知方法等を話し合うなど、部会の協議内容の充実にはまだ課題がある。 	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人一人の授業力向上を目指した具体的取組方法が素晴らしい。達成状況から捉えているよりよい授業づくりは、教員の児童生徒を「見取る力」が基本。一人一人の発達を良く捉えることの大切さを追求していくことを重点に研修を重ねてほしい。提示授業についての話し合いが批判にならないように、気付きや向上につながっている点を今後大切にしてほしい。 ・「授業の基本チェック」の活用により指導の一貫性が図られている。また児童生徒の実態把握に基づいた一単位時間の授業シナリオの作成や研究会等を通して授業力、実践力が高まっている。児童生徒側の視点や個々の実態把握をいかに授業改善につなげていくか、個々の成果と課題を共有しつつ、一層の授業力向上に努めていただきたい。 ・良い授業づくりと教員の授業力向上に向けての取組が学校挙げて良く行われている。 ・児童生徒が自分で考え進めて発展させていく形で、教師が児童生徒の力を引き出しているのに加えて、一人一人に応じた主体的・対話的で深い学びを考え、そのために生徒を見取る力を意識して取り組んでいる。一人の児童が具体的に目標を立て、見通しを経て自分でできることを実感し、満足し、自分からやり出すように細かな指導をしているのが素晴らしい。 ・学習展開において個人差が大きいので、一人一人の特性を生かす工夫が大切である。全教員の話し合いはとてもいいと思う。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学びの姿や思いを広く深く見取る授業協議を継続して行う。アサーティブな、相手の意見の尊重、率直かつ誠実な対話姿勢で学び合う教師を目指し、研究会や研修会の成果を日々の授業にフィードバックする。 ・知的障害の学習上の特性の理解を深めるほか、児童生徒が教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら深く理解したり、考えたり、表現したりできるための手立て(教材・教具を含む)を工夫する。また、個々の学習の成果と課題を学部職員で十分に共有し、授業改善に直結させる。 	A
-----------------------	---	---

学校評価シート（秋田県立大曲支援学校）

評価領域	地域支援
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校の特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援の充実 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校・高等学校からの支援の要請を受け、対応している。特別支援教育に対する理解や学校体制の構築が進んでいるが、管理職の姿勢に左右される面や、教員個々の知識や対応の差は否めない。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能についての理解推進を図りつつ、地域の園・学校等の特別支援に関わる実態や情報を収集し、ニーズに合った支援をする。 地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校や関係機関等とのネットワークを有効に機能させる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能についての事業説明（リーフレット送付） 地域の園・学校等からの相談内容の把握 地域のニーズに基づく相談対応、情報発信、参考図書の出出 本校児童生徒と地域の園・学校等との交流及び共同学習、居住地校交流の推進 	
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ①センター的機能紹介リーフレットを大仙市・美郷町の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、関係機関に送付 ②地域からの依頼による巡回相談や知能検査等の実施 ③地域の連絡協議会やケース検討会及び就学や教育に関する相談会等への参加・協力 ④セミナー（小・中学校特別支援学級授業研究会）等への参加・協力 ⑤特別支援学級担任等実践研修の実施、他校の校内研修会への協力 ⑥希望する園・学校等の児童生徒に対する「障害理解（出前）授業」の実施 ⑦「地域支援部報」の発行及びホームページへの掲載 ⑧「地域支援文庫」の管理・貸出 ⑨交流及び共同学習、居住地校交流等の実施とそれに向けた連絡調整 	D
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> ①リーフレット送付:大仙市・美郷町の幼保認小中高の全園校他81カ所 ②1月末現在 <ul style="list-style-type: none"> ・相談 5園、10小学校、5中学校 延べ計41回 ・知能検査（大仙市専門検査員の業務を含む）11校20名 <small>※上記2点については、教育専門監や特別支援教育アドバイザーも別途多数実施</small> ③・大仙SENネット会議への参加（月1回） ・美郷SENネット連絡協議会への参加（月1回） <small>（※SEN…special education needs）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・就学や教育に関する相談会（協力） 今年度は新型コロナウイルス感染予防のため協力なし ・大仙市教育支援専門検査員（委嘱） ～専門検査員会議（5回参加） ～就学前の園児の園訪問（2園：様子観察他） ・大仙市自立支援協議会全体会（1回参加） ・美郷町総合支援協議会実務者会議（1回参加） ④・小学校15校・中学校3校 計18校の特別支援学級授業研究会等に地域支援部員を中心に教職員が延べ35回参加 ⑤・特別支援学級担任等実践研修（3校合同2回実施） ・校内研修会等講師としての協力（1校2回） <small>（教育専門監や特別支援教育アドバイザーも別途多数実施）</small> ⑥・障害理解（出前）授業（6小学級11学級、2中学校2学級） ・教育専門監による障害理解（出前）授業（1小学校全学年対象） ⑦・地域支援部報「hand in hand」を年5回発行 ⑧・地域支援文庫～蔵書計184冊、年度内に実践で役立つ図書を追加購入。貸出依頼への対応の他、巡回相談やセミナー等への 	

	<p>参加時に担当者が持参し、具体的な情報や支援の方法等を提示するとき等に活用</p> <p>⑨・交流推進委員会を新設し、学校全体として交流先や内容について整理した。改めて交流の意義を共通理解した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防のため、直接交流は減少したが、交流方法をノート交換やビデオレター等に変えて継続した。 ・直接的な交流は控えたが、雪像づくりや除雪活動等、地域貢献といった形に変えてつながりを保った。 ・中学部は規模を縮小して、近隣の中学校とのスポーツ交流を実施した。 ・居住地校交流～小学部16名（新規5名）中学部3名が希望し、計19名、相手校10校、延べ31回実施。16名中10名は複数回の交流を実施できた。 	
--	---	--

自己評価	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のSENネット連絡協議会等へ参加し、大仙市及び美郷町の園・学校・教育委員会のほか関係機関との連携を深めることができた。 ・居住地校交流と連動させた障害理解（出前）授業を実施した。加えて交流事後の出前学習を新たに実施したことで、交流学級児童の好ましい変容が見られた。 ・一度の相談や検査報告で終わらずフォローアップの機会を積極的に設定したことで、支援提案の適切さや、学校の取組の成果、課題を双方で確認し合うことができた。 ・継続的な支援がきっかけで、全学年児童に対して障害理解授業の要請につながった小学校もあった。 	C
------	----------------------	--	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大仙市及び美郷町の関係諸機関との連携、支援が様々な手立てを通して効果的に行われた。フォローアップの機会を十分生かすことで成果と課題の共有ができ障害理解の深まりにつながった。各種事業が継続性を重視して実践されておりセンター的機能も十分に達成されている。 ・居住地校交流が日頃から良く行われており、当地での各学校や保護者の特別支援教育への理解や認識はレベルが高いと感じる。 ・支援の充実を進める対象のそれぞれの学校との関係づくりに色々取り組んでおり感心している。今年度から取り組んだ内小友小学校、大川西根小学校と巡回するハローノートは学校同士が仲良く、いろいろな交流ができる素晴らしい発案である。居住地校交流がお互いの刺激になって楽しむことが共生社会の実現につながると思う。 ・交流推進委員会の新設によって交流先の内容を整理し、共通理解したことは意義深いと思われる。 ・具体的取組が一度に終わらずフォローアップの機会を逃さず支援提供していったところが意識の高さであり、児童生徒を中心とした教員、学校の連携に繋がっている。障害理解授業の要請が広くつながっていくように今後も努力を重ねてほしい。 	C
------------	----------------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の園、学校等が主体的に効果的な支援、指導に取り組むことができるよう検査や相談後のフォローアップ支援の充実を図る。そのために、依頼校のニーズを的確にとらえ、検査報告や相談の際に積極的に経過確認のための再訪問を申し出る。 ・居住地校交流と連動させた障害理解授業の継続と共に、それ以外の学年や、特別支援学級がある学校への障害理解授業を実施する。そのために、検査や相談依頼の機会をとらえ、障害理解授業の実施について提案する。 	A
-----------------------	--	---